

漂白剤を主成分にした洗淨剤による色の変化は昔からある事故ですが、近年はウイルス感染対策として、次亜塩素酸ナトリウムによる消毒が推奨されていることから、脱色などのトラブルが増えることが懸念されます。

今回は、漂白剤を主成分にした洗淨剤による事故の典型例を紹介し、その対策を考えます。

監修／クリーニング総合研究所

着用・保管
取扱いに注意

衣類の状態

ワンピースのスカート部分に薬剤が付着したような状態で、脱色が生じている。

原因

次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした洗淨剤が付着したために脱色したものの。

原因が次亜塩素酸ナトリウムを主成分にした洗淨剤であることは、脱色部に残留した薬品を検出したり、主成分である次亜塩素酸ナトリウムを実際に付けて脱色を

再現することで確認できる。

ただし、事故品が水洗いされている場合は、付着物が洗い流されているために薬剤が検出できず、薬剤を検出できた場合でも、「いつ」「どこで」付着したのかを判断する方法はない。

漂白剤を主成分とした洗淨剤

漂白剤を主成分とした洗淨剤には、次亜塩素酸ナトリウムや過酸化水素を主成分にした液状のものと、過炭酸ナトリウムを主成分にした粉末状のものがあり、用途



ワンピース

別に次のような各種商品が販売されている。

- ・洗たく用漂白剤
- ・台所用品用漂白剤
- ・洗たく機の洗たく槽洗淨剤
- ・台所、浴室、洗面所などの配水管洗淨剤
- ・カビを除去するための洗淨剤
- ・トイレ清淨用洗淨剤

なお、「除菌」や「ウイルス消毒」等を謳っている二酸化塩素にも、漂白作用があることに注意したい。

また、高濃度の次亜塩素酸ナトリウムには、セルロース繊維を脆化させる作用があることにも注意が必要。

事故の防止対策

洗淨剤を付着させないことが基本となるが、誰が、いつ洗淨剤を付着させたのが問題となることから、クリーニングの工程での付着でないことを証明するために

は、作業場内に漂白剤や漂白剤が主成分となる洗淨剤は持ち込まないなどの対策も考えられる。

また、利用者には身近にある各種の洗淨剤が事故の原因になることや、衣類に付着した漂白剤等に気づかずクリーニングを機に顕在化する場合もあること、洗淨剤が付着した時はすぐに水で洗い流すことなどを日頃から周知することもある有効な対策と思われる。

洗淨剤の除去方法

洗淨剤は、水によるシミ抜きまたは水洗処理で除去する。付着部分が特定できればシミ抜きで対応できるが、特定できなければ水洗処理で全体を処理する。

シミ抜きや水洗処理を行う時は、それに伴って生じる可能性のある様々な変化について利用者の了解を得ることが必要。



薬剤が付着したような状態の脱色

■品名…ワンピース
■素材…綿 53%、レーヨン 47%
■取扱い絵表示…
■処理方法…石油系ドライクリーニング、タンブル乾燥

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページから PDF をダウンロードいただけます。
全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」